

— 国内の化粧品業界で初採用<sup>※1</sup> —

ペットボトルのキャップを再生し、化粧品の容器に利用  
～キリンビバレッジとファンケルが協働し、プラスチックの循環を推進～

キリンホールディングス株式会社（社長 磯崎功典、以下キリン）は、株式会社ファンケル（社長 島田和幸、以下ファンケル）との間で、2019年の資本業務提携を契機にさまざまな共同開発を進めています。

両社の環境保護に関する取り組みの一環で、キリングループのキリンビバレッジ株式会社（社長 堀口英樹、以下キリンビバレッジ）において、ペットボトル入り清涼飲料の生産時に排出されるキャップを再生樹脂に加工した素材を、ファンケルのグループ会社である株式会社アテニア（社長 斎藤智子、以下アテニア）の化粧品容器の一部に採用し、2021年1月より順次切り替えます。

なお、ペットボトルのキャップ由来再生樹脂を化粧品容器に採用することは、国内の化粧品業界で初めての取り組みとなります。

※1 ファンケル調べ

これによりキリンビバレッジはペットボトルのキャップの約3～4割を再利用することができ、環境負荷を低減することが可能となります。またアテニアにおいては、再生樹脂を採用することで、従来本製品に使用していた新規プラスチック量の約40%を削減することができます。

<詳細について>

アテニアでは環境に配慮し、ボトルタイプに比べて樹脂量を約85%削減できるフィルムパウチを使ったクレンジングオイルのレフィル製品「スキんクリア クレンジング オイル <エコパック>」を販売しています。今回、環境配慮の取り組みをさらに進めるため、アテニアは、ポリエチレン製「スパウト部<sup>※2</sup>」（右写真の赤丸部分）に、ペットボトルのキャップ由来再生樹脂を採用しました。



再生樹脂の製造方法について、まず、キリンビバレッジがペットボトルのキャップを選別回収し、専用の機器で印刷を除去、粉碎してフレーク状<sup>※3</sup>にします。その後、溶解、混合してペレット状<sup>※4</sup>にします。さらに、このペレットを溶解し、色素を加えて再生樹脂にしたものを成型して完成させます。

再生樹脂として使用するには、キャップの選別や印刷の除去工程などに手間がかかりますが、化粧品容器メーカーなどの協力を得て国内の化粧品業界では初の試みとして実現することができました。

【製品化までの工程】



※2 スパウト部：英語では「飲み口」と訳されるが、フィルム容器や紙パックなどに別で取り付けられる吐出口のパーツのこと。

※3 フレーク状：プラスチックを8mm角ほどの大きさに粉碎したもの。プラスチック製であるペットボトルのキャップを破碎・洗浄し乾燥させ、原料化する前の段階を指す。なお、「フレーク」は「薄い片」を表す言葉。

※4 ペレット状：粉碎したフレークを溶かし、均一の品質にしたものを小さな粒状に成型したもの。運搬・貯蔵がしやすく、加工性もよくなる。なお、「ペレット」とは「丸薬」を意味する言葉。

## <背景と目的>

キリンとファンケルは資本業務提携後、SDGs の達成やキリンが掲げる CSV<sup>※5</sup> の実現に向けて、環境配慮の観点を持った容器や包装資材の設計や生産で協業できることを積極的に検討しています。今回、ペットボトル入り清涼飲料のキャップを大量生産する際の初期段階や生産中に、また製造する製品の切り替え時に、そのまま利用できないキャップが排出されることに着目し、この樹脂の再利用と化粧品容器への採用を検討しました。再利用に向けては数点の課題がありましたが、協業により課題を解決し、本製品への応用に成功しました。

※5：Creating Shared Value の略。お客様や社会と共有できる価値の創造。



## <今後の展開>

今後も、キリンビバレッジから排出されるペットボトルのキャップについて、ファンケルグループのポリエチレンを使用した製品パーツへ応用することを検討していきます。また、キリングroupとファンケルグループ各社の製品特性などを生かし、さまざまな視点で環境影響に対する取り組みについて検討を進めていく予定です。さらに、容器の設計や包装資材の開発などについても、両グループのこれまでのノウハウを融合し、環境負荷の低減に向けた研究や技術開発を進めていきます。

キリングroupは、「酒類メーカーとしての責任」を果たし、「健康」「地域社会・コミュニティ」「環境」という社会課題に取り組むことで、こころ豊かな社会を実現し、お客様の幸せな未来に貢献します。